

## 第22回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

### 1 はじめに

OKB総研では、毎年、岐阜・愛知・三重・滋賀県に在住の主婦を対象に「主婦の消費行動に関するアンケート」を実施している。

当地域的主婦がどのような消費行動をしているのか、以下でその実態を明らかにしたい。

### 2 調査概要

本調査の概要は以下のとおりである。

- (1) 調査時期：2019年11月11日～11月15日
- (2) 調査方法：OKB大垣共立銀行本店(東京・大阪を除く)に訪じた主婦<sup>(※1)</sup> 791人にアンケート用紙を配布・回収
- (3) 有効回答数：777名(有効回答率98.2%)
- (4) 回答者属性

属性	割合	
年代	20歳代	5.4%
	30歳代	16.5%
	40歳代	25.6%
	50歳代	30.4%
	60歳以上	22.1%
住所	岐阜県	56.2%
	愛知県	39.9%
	三重県	1.9%
	滋賀県	1.7%
	その他	0.3%
就業形態	専業主婦	11.1%
	正社員・公務員・自営業	46.8%
	パートタイマー	38.9%
	内職・その他	3.2%

(※1) 本調査における「主婦」とは、既婚女性で子どもの有無や就業形態は問わない。  
 (※2) 数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

### 3 定例調査

#### (1) 主婦の景気判断

##### A. 主婦の景況感

「現在(2019年)の景気は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」が全体の3.1%、「変わらない」が57.9%、「悪くなった」が31.1%となった(図表1)。「悪くなった」が前回比11.8ポイントと大きく上昇した。全体として主婦の景況感は悪化していることがうかがえた。

年代・住所・就業形態別にみると、40歳代を除く全ての属性において

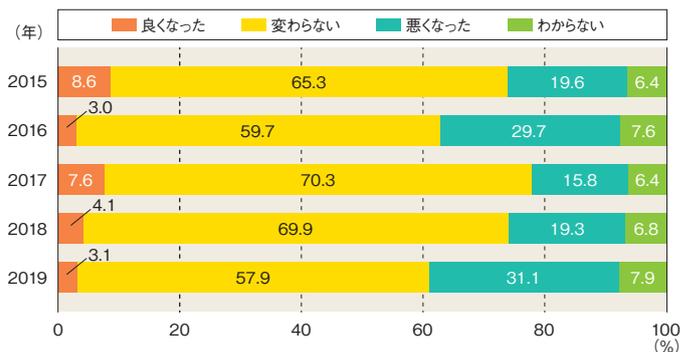
「良くなった」の回答率が低下し、20歳代を除く全ての属性において「悪くなった」の回答率が上昇した(図表2)。

景況D.I.(「良くなった」の回答率-「悪くなった」の回答率)は▲28.0。前回より12.8ポイント減少し、リーマン・ショック以降初めての2年連続の低下となった(図表3)。

##### B. 主婦の物価観

「現在(2019年)の物価は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」が全体の70.0%、「変わらない」が26.4%、「安くなった」が0.4%となった

図表1 主婦の景況感(全体)の推移



図表2 主婦の景況感(属性別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	3.1 (▲1.0)	57.9 (▲12.0)	31.1 (11.8)	7.9 (1.1)
20歳代	4.8 (▲3.5)	73.8 (8.8)	9.5 (▲5.5)	11.9 (0.2)
30歳代	4.7 (▲2.1)	61.7 (▲6.1)	22.7 (9.1)	10.9 (▲1.0)
40歳代	3.5 (0.8)	61.6 (▲14.0)	25.3 (10.2)	9.6 (2.9)
50歳代	2.1 (▲1.7)	57.2 (▲18.0)	34.7 (16.8)	5.9 (2.9)
60歳以上	2.4 (▲0.3)	47.6 (▲8.6)	44.7 (10.5)	5.3 (▲1.5)
岐阜県	3.0 (▲0.4)	58.9 (▲7.4)	31.3 (8.9)	6.9 (▲1.0)
愛知県	3.2 (▲1.9)	56.3 (▲19.0)	31.7 (17.6)	8.7 (3.3)
専業主婦	0.0 (▲1.9)	60.0 (▲3.5)	30.6 (2.7)	9.4 (2.7)
正社員等	4.7 (▲1.5)	55.2 (▲14.5)	32.4 (15.8)	7.7 (0.3)
パート	2.3 (▲0.5)	61.1 (▲11.0)	29.2 (10.0)	7.3 (1.4)

(※) 括弧内は、前年差を示す。

(図表4)。前回と比べて「高くなった」が6.2ポイント上昇し、「変わらない」が5.6ポイント低下した。

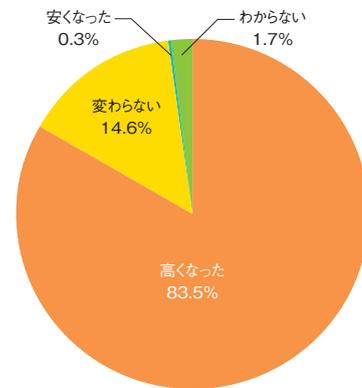
年代・住所・就業形態別にみると、全ての属性において「高くなった」の回答率が6～7割となった(図表5)。前回は引き続き物価上昇を実感している主婦が多い結果となった。

物価D.I.（「高くなった」の回答率－「安くなった」の回答率）は69.6。前回

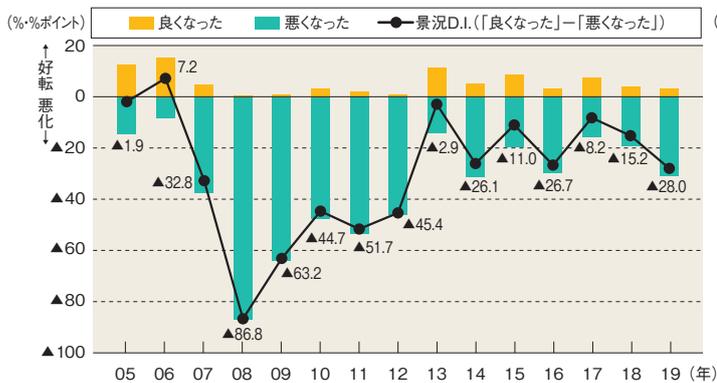
調査から6.8ポイント増加し、2年連続の上昇となった(図表6)。

2019年10月に消費税率が引き上げられた。そこで、主婦の物価観を前回増税時(2014年4月)と比べてみる。2014年の主婦の物価観をみると、「高くなった」が83.5%であった(参考)。また、物価D.I.は83.2で、前年比プラス23.2ポイントであった。それと比べると、今回調査の「高く

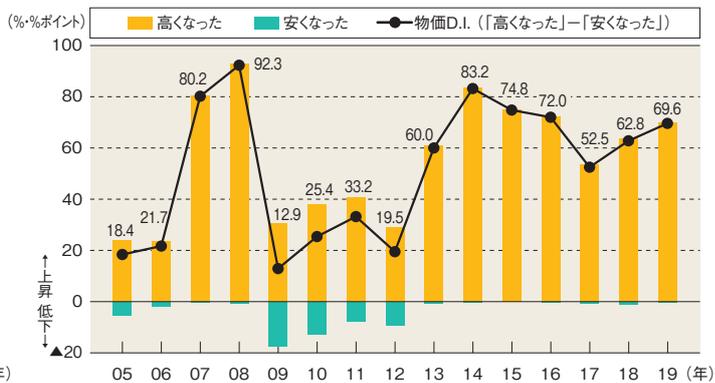
参考 主婦の物価観(2014年)



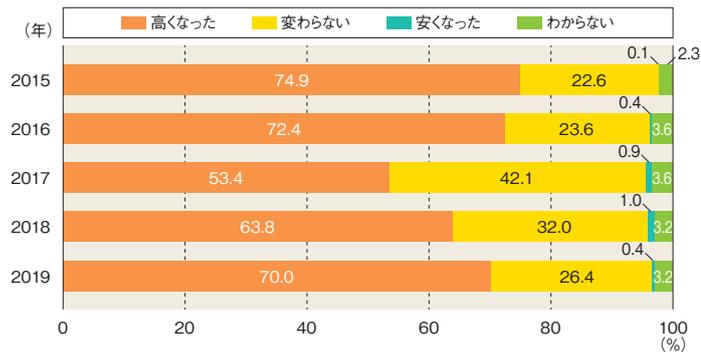
図表3 主婦の景況D.I.の推移



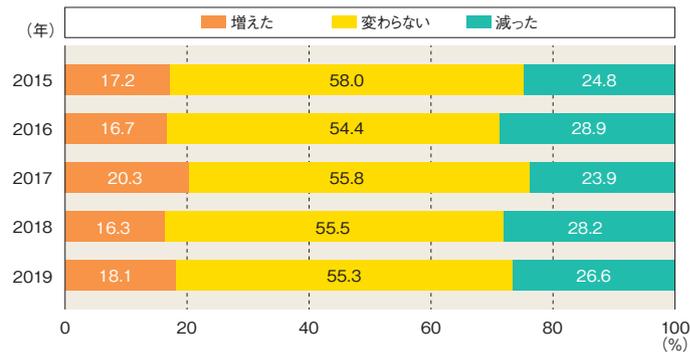
図表6 主婦の物価D.I.の推移



図表4 主婦の物価観(全体)の推移



図表7 家計収入(全体)の推移



図表5 主婦の物価観(属性別)

	(%・%ポイント)			
	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	70.0 (6.2)	26.4 (▲5.6)	0.4 (▲0.6)	3.2 (0.0)
20歳代	64.3 (▲12.4)	31.0 (14.3)	0.0 (▲1.7)	4.8 (▲0.2)
30歳代	68.8 (8.6)	28.9 (▲5.0)	0.0 (0.0)	2.3 (▲3.6)
40歳代	72.4 (7.5)	23.6 (▲8.0)	0.0 (▲0.9)	4.0 (1.3)
50歳代	66.1 (4.6)	29.2 (▲5.8)	0.8 (▲0.1)	3.8 (1.2)
60歳以上	74.9 (11.9)	22.8 (▲10.1)	0.6 (▲1.5)	1.8 (▲0.3)
岐阜県	70.0 (6.4)	27.0 (▲5.1)	0.2 (▲1.2)	2.7 (▲0.2)
愛知県	71.5 (7.1)	24.6 (▲6.5)	0.6 (0.0)	3.2 (▲0.6)
専業主婦	72.9 (14.2)	24.7 (▲12.8)	0.0 (0.0)	2.4 (▲1.4)
正社員等	66.2 (2.4)	29.7 (▲2.6)	0.5 (▲0.1)	3.6 (0.3)
パート	74.2 (7.9)	22.8 (▲6.6)	0.3 (▲1.2)	2.6 (▲0.2)

(\*)括弧内は、前年差を示す。

図表8 家計収入(属性別)

	(%・%ポイント)		
	増えた	変わらない	減った
全体	18.1 (1.8)	55.3 (▲0.2)	26.6 (▲1.6)
20歳代	26.2 (▲0.5)	59.5 (1.2)	14.3 (▲0.7)
30歳代	34.4 (3.0)	50.8 (3.3)	14.8 (▲6.4)
40歳代	24.1 (7.2)	55.8 (▲4.2)	20.1 (▲3.0)
50歳代	9.7 (▲0.1)	59.7 (▲3.5)	30.5 (3.6)
60歳以上	8.3 (▲0.7)	50.9 (9.5)	40.8 (▲8.9)
岐阜県	17.9 (2.5)	54.5 (1.2)	27.6 (▲3.7)
愛知県	18.4 (1.4)	56.0 (▲2.7)	25.6 (1.2)
専業主婦	9.5 (▲1.1)	48.8 (▲2.2)	41.7 (3.2)
正社員等	21.4 (2.4)	57.7 (0.9)	20.9 (▲3.2)
パート	16.6 (1.1)	54.2 (▲2.8)	29.2 (1.6)

(\*)括弧内は、前年差を示す。

なった」の回答率は低く、物価D.I.の前年比上昇幅も小さい。主婦は前回増税時ほど物価の上昇を感じていない様子が見られる。

## (2) 家計について

### A. 家計の収入

「2019年の家計収入は、1年前と比べてどうになりましたか」と尋ねたところ、「増えた」が全体の18.1%、「変わらない」が55.3%、「減った」が

26.6%となった(図表7)。前回と比べて「増えた」の回答率はわずかに増加したものの、「変わらない」「減った」の合計は8割以上となっており、「増えた」は依然として少数派となっている。

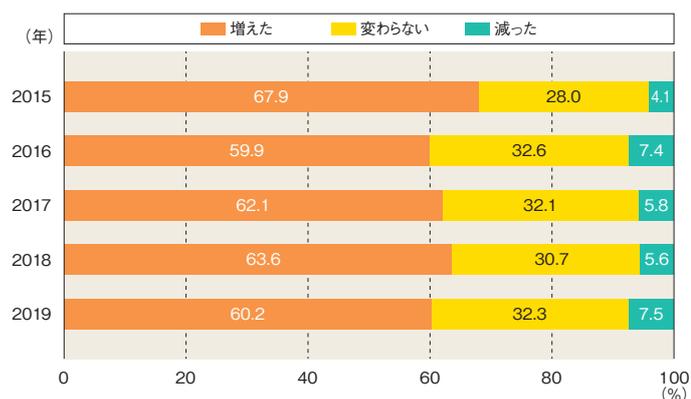
年代別で見ると、「増えた」の回答率が20～40歳代で2～3割であり、その他の年代に比べて高くなっている。一方、いずれの年代においても「変わらない」の回答率が最も高く、

収入の増加は一部にとどまっていることがうかがえる(図表8)。

### B. 家計の支出

一方、「2019年の家計支出は、1年前と比べてどうになりましたか」と尋ねたところ、「増えた」が全体の60.2%、「変わらない」が32.3%、「減った」が7.5%となった(図表9)。「増えた」の回答率は前回より減ったものの依然として6割以上を占めて

図表9 家計支出(全体)の推移



図表10 家計支出(属性別)

	(%・%ポイント)		
	増えた	変わらない	減った
全体	60.2 (▲3.4)	32.3 (1.6)	7.5 (1.9)
20歳代	59.5 (▲10.5)	33.3 (6.6)	7.1 (3.8)
30歳代	58.6 (▲8.3)	37.5 (7.0)	3.9 (1.4)
40歳代	73.9 (4.7)	24.6 (▲3.1)	1.5 (▲1.6)
50歳代	56.4 (0.8)	32.2 (▲1.6)	11.4 (0.7)
60歳以上	50.9 (▲11.4)	37.3 (4.4)	11.8 (7.0)
岐阜県	63.2 (▲1.3)	30.3 (▲0.7)	6.4 (1.9)
愛知県	57.0 (▲5.7)	33.7 (3.5)	9.4 (2.3)
専業主婦	51.2 (▲4.6)	34.5 (▲1.1)	14.3 (5.6)
正社員等	58.2 (▲3.5)	34.9 (1.4)	6.9 (2.2)
パート	65.1 (▲2.3)	28.2 (1.5)	6.6 (0.7)

(\*) 括弧内は、前年差を示す。

図表11 支出が増えた費目の推移(上位5費目)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
1位	家電・家具購入費	食費	交通・通信費	食費	食費	食費	食費	食費	食費	食費	(49.3)
2位	教育費	教育費	教育費	光熱・水道費	光熱・水道費	交通・通信費	教育費	交通・通信費	光熱・水道費	光熱・水道費	(30.8)
3位	食費	交通・通信費	食費	交通・通信費	交通・通信費	教育費	交通・通信費	教育費	教育費	教育費	(27.6)
4位	交通・通信費	家電・家具購入費	光熱・水道費	教育費	教育費	光熱・水道費	光熱・水道費	光熱・水道費	交通・通信費	交通・通信費	(25.7)
5位	光熱・水道費	光熱・水道費	家電・家具購入費	保険医療費	衣料費	家電・家具購入費	レジャー費	保険医療費	交際費	家電・家具購入費	(21.6)
										増えた費目なし	(3.7)

※複数回答(%)

図表12 支出が増えた費目(上位5費目、属性別)

	食費		光熱・水道費		教育費		交通・通信費		家電・家具購入費		増えた費目なし	
全体	49.3	(2.6)	30.8	(2.9)	27.6	(1.0)	25.7	(1.7)	21.6	(1.0)	3.7	(▲0.1)
20歳代	64.3	(7.6)	23.8	(▲9.5)	4.8	(▲1.9)	16.7	(▲8.3)	11.9	(▲13.1)	2.4	(▲0.9)
30歳代	69.6	(6.7)	26.4	(▲3.8)	52.0	(12.3)	20.0	(1.0)	19.2	(▲2.4)	1.6	(▲1.0)
40歳代	45.4	(▲6.4)	29.6	(5.3)	53.6	(0.9)	35.7	(11.4)	21.9	(4.8)	4.1	(2.7)
50歳代	41.2	(7.1)	30.0	(1.2)	13.7	(0.2)	27.0	(▲1.8)	24.9	(3.9)	4.3	(▲0.1)
60歳以上	46.3	(4.5)	38.4	(10.7)	3.7	(▲0.6)	18.3	(▲0.8)	20.7	(▲2.0)	4.3	(▲3.5)
岐阜県	49.4	(3.6)	34.4	(3.4)	29.5	(4.7)	28.8	(2.6)	19.2	(▲1.9)	3.3	(▲1.1)
愛知県	49.5	(0.5)	26.7	(4.0)	25.7	(▲2.9)	22.4	(1.0)	24.8	(4.0)	4.0	(1.1)
専業主婦	48.1	(▲10.2)	34.6	(1.6)	23.5	(▲2.7)	22.2	(▲1.1)	22.2	(8.6)	2.5	(▲2.4)
正社員等	49.7	(3.2)	26.7	(1.6)	24.4	(3.6)	23.9	(3.1)	21.9	(0.4)	3.9	(▲0.6)
パート	49.3	(5.9)	34.2	(5.7)	33.2	(0.3)	29.2	(2.0)	21.5	(▲1.0)	3.7	(1.2)

※複数回答(%・%ポイント)

(※1) 色は、各属性における最も回答率の高い費目。(※2) 括弧内は、前年差を示す。

おり、家計の支出は増加していることがうかがえた。

年代・住所・就業形態別にみると、全ての属性において「増えた」の回答率が5～7割となった(図表10)。

### C. 家計支出の費目別動向

#### (a) 支出増加費目／支出減少費目

「2019年の家計支出を考えたとき、1年前より支出が増えた費目は何か(あてはまるもの全て選択)」と尋ねたところ、「食費」が49.3%でトップであった。原材料費や物流費、人件費の高まりなどにより食料品の値上げが進んでいることが影響しているのではないかと考える。2位は「光熱・水道費」で、30.8%であった。円安による燃料価格上昇や、10月まで25度以上の夏日が続いたことにより冷房設備の稼働が増加したことが要因であると考え(図表11)。

年代別にみると、「教育費」がトップであった40歳代を除き、全ての年代で「食費」がトップであった(図表12)。

次に、「2019年の家計支出を考えたとき、1年前より支出が減った費目は何か(あてはまるもの全て選択)」と尋ねたところ、トップは「レジャー費」、2位は「衣料費」、3位は「外食費」で前回と同じ順位であった(図表13)。

前回調査(2018年)より追加した「減った費目なし」の回答率は32.3%と最も高かった。

年代別にみると、60歳以上を除く全ての年代において「減った費目なし」が最も回答率が高かった。それ以外では、20歳代と50歳代、60歳以上は「衣料費」、30歳代は「外食費」、40歳代は「レジャー費」の回答率が最も高くなった(図表14)。

#### (b) 今以上に減らしたい費目／増やしたい費目

「2019年の家計支出をふまえて、今以上に支出を減らしたい費目は何か(3つまで選択)」と尋ねたところ、「光熱・水道費」が37.3%でトップとなり、次に「食費」が36.2%、「外食費」が22.0%となった(図表15)。年代別にみると、全ての年代で「光熱・水道費」と「食費」が上位を占める結果となった。

一方、「2019年の家計支出をふまえて、今以上に支出を増やしたい費目は何か(3つまで選択)」と尋ねたところ、「レジャー費」が31.7%でトップとなり、次に「教養娯楽費」で12.6%、「教育費」で10.0%となった(図表16)。

前回調査(2018年)より追加した「増やしたい費目はない・特に考えていない」の回答率は45.2%と最も高く、前回より5.8ポイント上昇した。収入が

図表13 支出が減った費目の推移(上位5費目)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
1位	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	レジャー費	(21.1)
2位	外食費	外食費	外食費	外食費	外食費	外食費	衣料費	衣料費	衣料費	衣料費	(18.8)
3位	衣料費	衣料費	衣料費	衣料費	衣料費	衣料費	外食費	外食費	外食費	外食費	(17.3)
4位	食費	光熱・水道費	家電・家具購入費	家電・家具購入費	家電・家具購入費	家電・家具購入費	家電・家具購入費	家電・家具購入費	食費	食費	(9.4)
5位	理容・美容費	食費	食費	理容・美容費	教養娯楽費	理容・美容費	食費	食費	理容・美容費	家電・家具購入費	(9.0)
										減った費目なし	(32.3)

※複数回答(%)

図表14 支出が減った費目(上位5費目、属性別)

	レジャー費		衣料費		外食費		食費		家電・家具購入費		減った費目なし	
全体	21.1	(▲1.2)	18.8	(0.5)	17.3	(1.1)	9.4	(0.7)	9.0	(1.0)	32.3	(0.4)
20歳代	19.5	(0.5)	24.4	(2.0)	19.5	(4.0)	12.2	(1.9)	9.8	(▲4.0)	26.8	(2.7)
30歳代	12.5	(▲2.7)	11.7	(2.2)	14.2	(▲2.9)	5.8	(4.8)	9.2	(▲1.3)	36.7	(▲1.4)
40歳代	24.7	(▲0.7)	10.5	(▲4.5)	21.1	(6.1)	7.4	(3.2)	7.4	(▲0.1)	37.9	(0.3)
50歳代	19.5	(0.8)	21.2	(0.8)	15.2	(1.4)	13.9	(▲0.8)	8.2	(3.3)	30.3	(▲0.4)
60歳以上	26.3	(▲4.1)	29.6	(4.4)	17.8	(▲3.7)	7.2	(▲3.9)	11.8	(2.2)	26.3	(2.6)
岐阜県	23.5	(▲0.7)	18.3	(▲0.6)	19.1	(3.3)	10.3	(1.7)	9.8	(2.1)	31.5	(0.2)
愛知県	18.9	(▲0.7)	19.9	(1.7)	15.2	(▲2.7)	8.1	(▲0.5)	7.8	(▲0.1)	33.8	(0.8)
専業主婦	25.0	(0.0)	18.8	(▲10.4)	12.5	(▲5.2)	11.3	(5.0)	10.0	(▲3.5)	30.0	(4.0)
正社員等	18.2	(▲1.6)	19.9	(2.9)	16.7	(1.9)	9.1	(0.3)	9.1	(2.2)	30.2	(▲2.8)
パート	23.1	(▲1.2)	16.2	(0.4)	20.0	(4.2)	9.0	(▲0.2)	8.3	(1.1)	35.2	(1.6)

※複数回答(%・%ポイント)

(※1) ■ は、各属性における最も回答率の高い費目。(※2)括弧内は、前年差を示す。

伸び悩む中、物価上昇などの影響もあり、主婦の節約志向はさらに強まっていることがみてとれた。

### (c) 高額商品の購入

「2019年に1商品10万円以上する高価な買い物(家族旅行を含む)をしましたか」と尋ねたところ、「買い物をした」は59.1%であった。次に「買い物をした」と回答した人に「具体的にどのような買い物をしましたか(あてはまるもの全て選択)」と尋ねたところ、「国内旅行」が34.2%でトップとなった。次に「一般家電」で30.0%、「自動車の購入・維持」で28.5%となった(図表17)。

年代別にみると、20歳代は「海外旅行」、30歳代は「国内旅行」、40歳代は「自動車の購入・維持」、50歳代は「一般家電」と「自動車の購入・維持」、60歳以上は「国内旅行」が

それぞれトップであった(図表18)。

### D. 家計管理の工夫について

「あなたが家計を管理する中で、工夫していることは何ですか(あてはまるもの全て選択)」と尋ねたところ、「ポイント・クーポン・割引券等を活用する」が61.7%でトップであった。次に「特売品・安価商品を購入する」で52.1%、「必要なものだけを購入する」で46.8%となった(図表19)。

年代別にみると、20～50歳代は「ポイント・クーポン・割引券等を活用する」が、60歳以上は「必要なものだけを購入する」がそれぞれトップであった(図表20)。

### E. 買物場所について

#### (a) 買物場所の選択基準

「あなたが買物場所を選択するに

あたり、重視する点は何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、「価格」が71.0%でトップであった。次に「品揃え」で51.7%、「品質」で46.2%となった(図表21)。

上位3項目について、前回と比べて回答率に大きな増減はみられなかった。

#### (b) 買物場所の利用頻度

実際に主婦はどのような店を利用しているのだろうか。

図表22は、主婦の買物場所(11業態)の利用頻度を1年間の平均利用回数に換算した結果である。

主婦が最もよく利用する店は従来通り「スーパー」で、およそ2.7日に1度(年間136.4回)の頻度で利用されていた。次に、「コンビニエンスストア」で5.1日に1度、「ドラッグストア」で6.9日に1

図表15 今以上に支出を減らしたい費目(上位5費目、属性別)

	※複数回答(%・%ポイント)					減らしたい費目はない/特に考えていない	
	光熱・水道費	食費	外食費	保険料	交通・通信費	減らしたい費目はない	特に考えていない
全体	37.3 (▲2.4)	36.2 (▲2.0)	22.0 (▲0.5)	16.1 (2.5)	14.5 (▲1.0)	12.5	(0.0)
20歳代	52.4 (0.7)	38.1 (▲13.6)	28.6 (▲13.1)	9.5 (▲8.8)	4.8 (▲26.9)	2.4	(▲5.9)
30歳代	39.4 (▲5.4)	43.3 (▲11.9)	36.2 (3.4)	18.1 (4.3)	14.2 (2.1)	5.5	(▲0.5)
40歳代	39.4 (▲4.0)	44.4 (4.2)	21.2 (▲1.6)	13.6 (0.8)	17.2 (0.8)	10.6	(▲1.3)
50歳代	39.5 (▲0.6)	36.1 (4.6)	15.9 (▲1.3)	18.0 (3.3)	15.0 (1.6)	12.4	(▲1.4)
60歳以上	26.1 (1.6)	20.6 (▲6.0)	18.8 (4.8)	16.4 (5.2)	13.3 (0.0)	23.0	(4.8)
岐阜県	40.0 (1.8)	35.3 (1.0)	21.7 (0.6)	16.8 (5.1)	15.4 (0.9)	11.4	(▲2.6)
愛知県	34.2 (▲7.8)	38.4 (▲4.3)	22.5 (▲2.9)	16.0 (0.4)	13.7 (▲3.6)	12.7	(2.3)
専業主婦	31.7 (▲3.6)	24.4 (▲12.9)	20.7 (4.0)	15.9 (6.1)	8.5 (▲2.3)	17.1	(1.4)
正社員等	33.3 (▲3.0)	34.4 (▲4.6)	21.8 (▲2.7)	17.6 (4.6)	11.8 (▲4.2)	14.0	(▲1.7)
パート	43.3 (▲2.3)	40.9 (2.2)	22.5 (0.8)	14.8 (▲1.2)	19.8 (3.1)	8.7	(0.2)

(※1) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。(※2)括弧内は、前年差を示す。

図表16 今以上に支出を増やしたい費目(上位5費目、属性別)

	※複数回答(%・%ポイント)					増やしたい費目はない/特に考えていない	
	レジャー費	教養娯楽費	教育費	外食費	食費	増やしたい費目はない	特に考えていない
全体	31.7 (▲6.2)	12.6 (1.0)	10.0 (▲1.5)	8.8 (0.2)	7.2 (▲1.4)	45.2	(5.8)
20歳代	23.8 (▲13.5)	11.9 (3.4)	11.9 (▲5.0)	0.0 (▲6.8)	9.5 (4.4)	47.6	(6.9)
30歳代	33.9 (▲10.9)	8.1 (▲4.0)	28.2 (▲0.2)	4.8 (▲1.2)	8.9 (3.7)	40.3	(8.4)
40歳代	27.0 (▲9.7)	11.7 (▲3.4)	15.8 (▲3.0)	9.2 (▲0.4)	9.2 (▲0.4)	43.9	(6.7)
50歳代	37.1 (0.1)	15.1 (6.7)	0.9 (▲0.4)	11.2 (4.2)	4.3 (▲2.7)	47.0	(2.5)
60歳以上	29.9 (▲5.6)	13.6 (1.3)	1.3 (1.3)	10.4 (▲1.9)	7.1 (▲6.7)	47.4	(6.8)
岐阜県	33.5 (▲2.8)	12.0 (0.6)	10.0 (0.9)	8.9 (▲0.2)	7.9 (▲0.7)	45.0	(4.1)
愛知県	29.7 (▲10.4)	14.0 (2.4)	9.7 (▲5.9)	9.0 (1.4)	6.7 (▲1.2)	45.0	(8.2)
専業主婦	25.6 (▲10.8)	16.7 (▲0.5)	7.7 (▲7.5)	12.8 (0.7)	7.7 (▲2.4)	44.9	(10.6)
正社員等	33.0 (▲5.3)	11.8 (1.8)	7.9 (▲1.8)	9.3 (2.3)	6.2 (▲1.4)	46.2	(1.8)
パート	32.3 (▲5.5)	12.2 (1.6)	13.3 (1.4)	7.1 (▲1.2)	8.5 (0.5)	43.5	(6.3)

(※1) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。(※2)括弧内は、前年差を示す。

度となっている。「通信販売」が前回より順位を下げたものの、全体として回答率に大きな増減はみられなかった。

## 4 時事調査:「主婦のキャッシュレス決済利用」について

近年、効率化やデータ活用、インバウンドの取り込みといった観点から、我が国においてキャッシュレス決済の

導入が活発になっている。足元では決済事業者がキャッシュレス決済に関するさまざまなサービスを展開し、利用者の獲得にむけた熾烈な競争を繰り広げている。このような状況の中、政府は昨年10月からの消費税率引き上げに伴い、キャッシュレス決済で支払いを行うと購入額の最大5%が還元される「ポイント還元制度」を実施している。ポイント還元は予想を

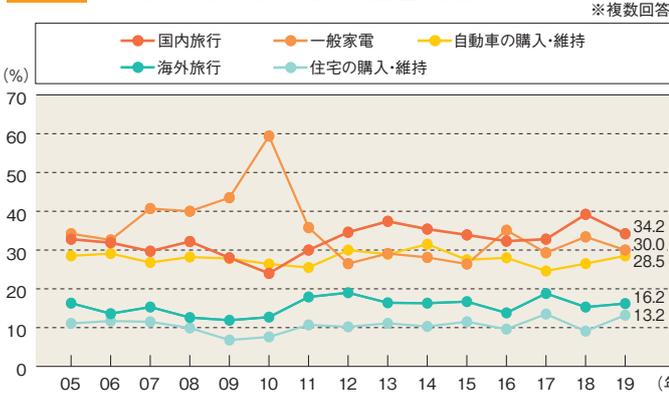
上回るペースで進んでおり、キャッシュレス決済拡大の追い風となっている。

そこで、今回の時事調査では、主婦の普段の買い物における店頭での決済方法と、キャッシュレス決済について調査を行った。

### (1) 普段の買い物における決済方法

はじめに、「過去1年間に普段の

図表17 購入した高額商品の推移（上位5品目）



図表18 購入した高額商品（上位5品目、属性別）

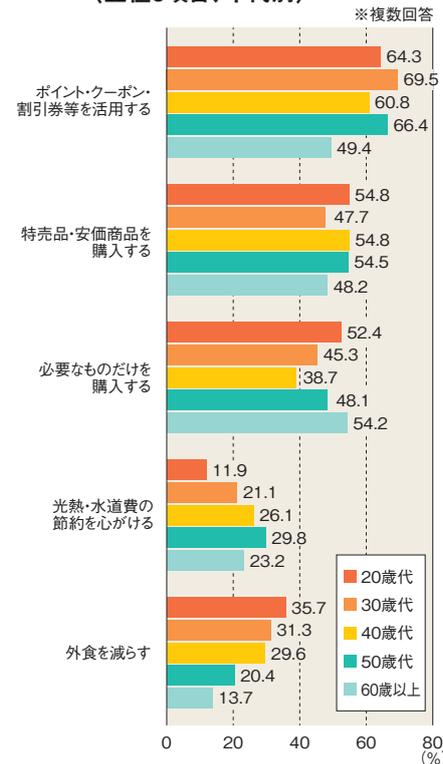
	国内旅行	一般家電	自動車の購入・維持	海外旅行	住宅の購入・維持
全体	34.2 (▲5.0)	30.0 (▲3.4)	28.5 (2.0)	16.2 (0.9)	13.2 (4.1)
20歳代	17.2 (▲23.3)	20.7 (▲25.2)	17.2 (1.0)	51.7 (22.0)	10.3 (▲0.5)
30歳代	47.3 (2.0)	36.5 (▲2.6)	24.3 (5.5)	12.2 (1.3)	16.2 (5.3)
40歳代	35.3 (▲12.4)	30.2 (▲5.7)	36.2 (7.3)	6.9 (▲0.9)	10.3 (4.8)
50歳代	29.9 (▲5.8)	32.8 (7.5)	32.8 (2.9)	17.5 (0.6)	15.3 (6.9)
60歳以上	34.0 (6.8)	24.0 (▲10.6)	20.0 (▲7.2)	18.0 (▲3.0)	12.0 (▲1.6)
岐阜県	36.6 (▲0.7)	31.5 (▲4.6)	33.5 (6.2)	12.1 (▲0.8)	14.0 (6.0)
愛知県	31.9 (▲9.8)	27.7 (▲3.5)	23.4 (▲0.7)	21.8 (4.7)	12.2 (1.1)
専業主婦	29.2 (▲5.3)	22.9 (▲11.6)	29.2 (▲1.7)	12.5 (▲11.1)	14.6 (▲3.6)
正社員等	31.7 (▲6.9)	30.0 (▲5.6)	28.6 (11.8)	20.7 (2.4)	14.5 (3.1)
パート	39.1 (▲2.1)	33.7 (3.3)	29.0 (▲5.5)	10.7 (1.4)	10.7 (6.1)

(※1) は、各属性における最も回答率の高い費目。(※2) 括弧内は、前年差を示す。

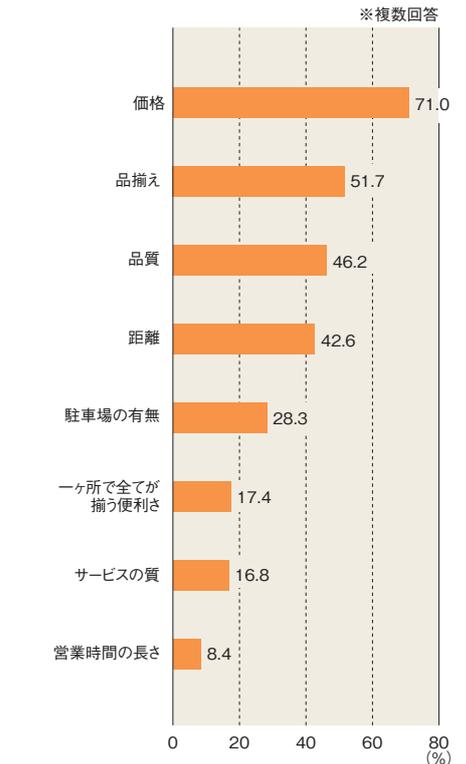
図表19 家計管理で工夫していること（全体）



図表20 家計管理で工夫していること（上位5項目、年代別）



図表21 買物場所の選択基準



買い物で利用した決済方法について尋ねたところ、キャッシュレス決済で利用率が最も高かったのは「クレジットカード」で88.0%だった。以下、「電子マネー」が52.1%、「スマートフォン決済」が37.1%と続いた。また、決済方法を「現金のみ」とする回答は7.4%だった(図表23)。主婦の9割以上が普段の買い物でキャッシュレス決済を使っていることが分かった。

年代別にみると、60歳以上を除く全ての年代において「クレジットカード」の回答率が9割以上であった。また、「スマートフォン決済」は年代が下がるにつれて回答率が高くなってい

る。さらに、20歳代では「電子マネー」「スマートフォン決済」の回答率が7割以上となっており、キャッシュレス決済の利用に特に積極的である様子がうかがえる。一方、60歳以上は「クレジットカード」でも6割にとどまるほか、その他のキャッシュレス決済においても他の年代と比べて回答率が低く、新しいキャッシュレス決済利用への関心が高くない様子がうかがえる。

## (2) キャッシュレス決済の利用場所

次に「キャッシュレス決済の利用場所」について尋ねたところ、「スーパー・

ショッピングモール」が76.7%でトップとなり、以下「コンビニ」が56.0%、「ドラッグストア」が55.3%となった(図表24)。これらは「主婦の買物場所」(図表22)上位3項目と対応しており、主婦は普段よく行く場所でキャッシュレス決済を利用していることがうかがえる。

年代別にみると、20歳代は「コンビニ」、その他の全ての年代は「スーパー・ショッピングモール」がトップであった。

## (3) キャッシュレス決済で支払いをしたことがあるもの

「キャッシュレス決済で支払いをし

図表22 買物場所の年間平均利用回数

(単位「利用頻度」を除く：回/年)

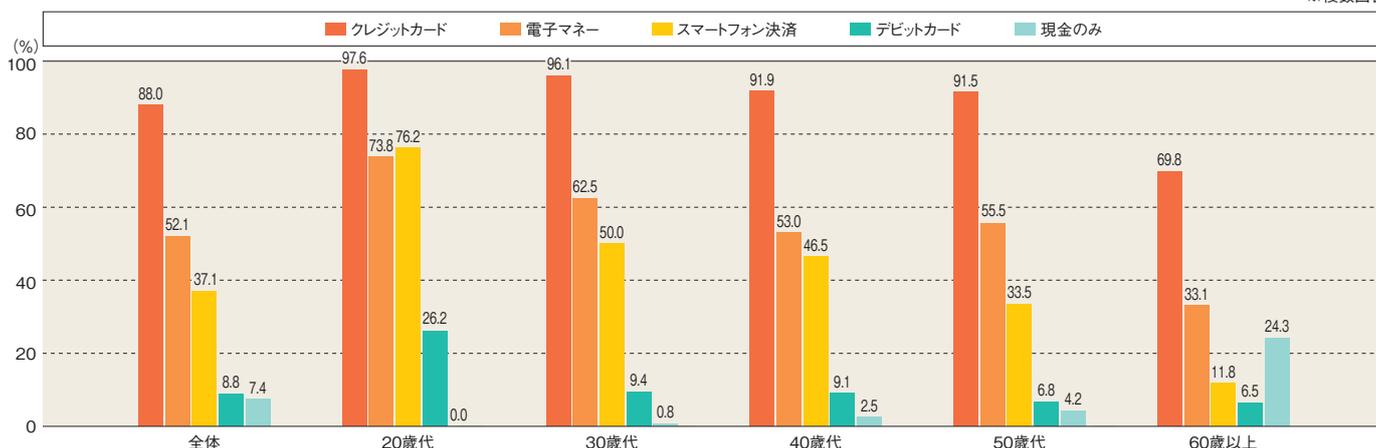
	スーパー	コンビニエンスストア	ドラッグストア	複合型SC	ディスカウントストア	100円ショップ	ホームセンター	通信販売	商店街	百貨店	家電量販店
全体	136.4 (▲6.7)	72.1 (0.4)	53.2 (▲2.0)	25.6 (3.0)	22.7 (0.3)	16.0 (▲0.7)	15.5 (1.5)	15.4 (1.1)	7.8 (▲0.5)	6.7 (0.1)	3.5 (▲0.3)
20歳代	88.1 (▲16.4)	75.2 (▲30.6)	40.0 (▲24.3)	20.9 (▲0.7)	27.8 (▲3.6)	13.5 (▲1.5)	5.5 (▲3.0)	15.3 (▲1.5)	1.9 (0.2)	6.9 (0.2)	3.1 (▲0.8)
30歳代	104.2 (▲22.1)	102.8 (18.9)	56.1 (5.3)	28.3 (▲1.5)	18.5 (▲5.1)	18.8 (▲2.0)	12.0 (2.5)	25.8 (5.3)	1.3 (0.3)	4.8 (▲0.1)	3.7 (0.3)
40歳代	146.3 (1.0)	79.7 (5.5)	62.5 (▲0.2)	24.9 (4.3)	32.3 (4.9)	15.5 (▲3.2)	13.6 (0.1)	16.2 (0.0)	2.8 (▲4.9)	4.6 (▲0.7)	4.1 (0.1)
50歳代	136.5 (▲18.0)	60.7 (5.0)	50.7 (▲1.4)	29.3 (6.1)	21.9 (3.0)	15.7 (1.5)	19.5 (4.1)	13.6 (2.4)	7.0 (▲0.2)	5.7 (▲1.9)	3.2 (▲0.6)
60歳以上	161.4 (9.6)	53.8 (▲16.3)	46.2 (▲0.9)	19.7 (0.1)	13.3 (▲2.7)	15.2 (0.4)	17.9 (▲1.1)	8.0 (▲1.1)	22.2 (2.1)	11.4 (2.6)	2.8 (▲1.1)
岐阜県	135.8 (▲2.8)	65.6 (▲3.2)	58.5 (▲2.1)	24.1 (2.5)	26.5 (▲2.2)	15.6 (▲1.0)	17.1 (1.4)	12.9 (0.0)	6.2 (▲0.7)	4.2 (▲0.5)	3.5 (▲0.2)
愛知県	136.1 (▲14.0)	80.8 (3.5)	46.6 (▲2.7)	27.7 (3.0)	17.2 (2.5)	16.1 (▲1.1)	13.1 (1.4)	17.9 (2.4)	9.9 (▲0.8)	9.7 (0.1)	3.4 (▲0.4)
専業主婦	151.0 (12.9)	61.0 (2.8)	46.1 (▲10.6)	29.0 (3.9)	19.1 (▲0.3)	19.0 (1.2)	14.8 (▲1.7)	11.8 (▲1.5)	14.4 (3.9)	14.5 (6.7)	3.5 (▲0.1)
正社員等	128.5 (▲4.4)	87.8 (1.0)	54.1 (1.2)	24.8 (0.7)	20.5 (▲0.8)	13.8 (▲0.9)	17.7 (4.1)	20.6 (4.7)	8.8 (1.1)	6.7 (▲0.5)	3.2 (▲0.5)
パート	142.7 (▲12.1)	57.8 (▲3.9)	55.6 (▲1.3)	26.1 (5.8)	26.9 (3.0)	17.8 (▲0.8)	13.6 (▲0.3)	10.6 (▲1.5)	4.5 (▲3.5)	4.0 (▲1.5)	3.9 (0.2)
利用頻度(*1)	2.7 (0.1)	5.1 (0.0)	6.9 (0.3)	14.3 (▲1.8)	16.0 (▲0.3)	22.8 (1.0)	23.6 (▲2.5)	23.7 (▲1.8)	46.9 (2.8)	54.8 (▲0.5)	105.0 (8.2)

(\*1)「利用頻度」とは、「全体」において、それぞれの業態に訪れる間隔を日数単位で表したものを示す。スーパーであれば2.7日に1回利用するとの意味。

(\*2)括弧の中の数字は、前年利用回数および前年利用頻度との差を示す。

図表23 普段の買い物における決済方法

※複数回答



たことがあるもの」について尋ねたところ、「食料品」がトップで82.3%だった。次に「衣料・服飾品」が79.6%、「交通費(旅客運賃、ガソリン代含む)」が61.8%と続いた(図表25)。「キャッシュレス決済の利用場所」の上位4項目(スーパー・ショッピングモール、コンビニ、ドラッグストア、ガソリンスタンド)で主に購入されるもの

が上位となった。

年代別に見ると、順位はそれぞれ異なるものの、「食料品」と「衣料・服飾品」が上位を占めた。

#### (4) キャッシュレス決済派か現金派か

決済方法について、「キャッシュレス決済派か現金派か」尋ねたところ、

キャッシュレス決済派と回答した主婦(「キャッシュレス決済派」+「どちらかといえばキャッシュレス決済派」)の割合が49.5%、現金派と回答した主婦(「現金派」+「どちらかといえば現金派」)の割合が50.5%となり、両者はほぼ互角であった(図表26)。

年代別に見ると、キャッシュレス決

図表24 キャッシュレス決済の利用場所

※複数回答(%)

	スーパー・ショッピングモール	コンビニ	ドラッグストア	ガソリンスタンド	飲食店	家電量販店	百貨店・デパート	公共交通機関	自動販売機	その他
全体	76.7	56.0	55.3	49.7	43.7	43.4	40.9	33.3	12.9	3.7
20歳代	69.0	81.0	59.5	40.5	50.0	31.0	42.9	59.5	33.3	0.0
30歳代	81.9	67.7	63.8	52.0	48.8	48.0	41.7	34.6	22.0	5.5
40歳代	79.1	57.6	53.4	51.3	40.3	38.7	33.0	27.7	13.1	6.8
50歳代	78.8	53.1	57.1	51.8	49.1	49.1	42.9	37.6	9.3	1.3
60歳以上	66.7	38.9	45.2	44.4	31.7	39.7	47.6	23.8	3.2	2.4

(\*) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。

図表27 キャッシュレス決済を利用する理由

※複数回答(%)

	ポイントがたまから	支払いがスムーズだから	割引などで安く買えるから	現金を引き出すのが面倒から	現金を財布に持ち歩くのが面倒から	利用した金額を管理しやすいから	利用できる場所が多いから	周りの人がキャッシュレス決済を使っているから	その他
全体	82.9	71.4	44.4	31.6	30.7	12.0	7.0	0.8	0.3
20歳代	88.5	73.1	57.7	38.5	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0
30歳代	83.8	71.6	41.9	32.4	27.0	16.2	5.4	2.7	0.0
40歳代	80.9	67.0	51.1	34.0	28.7	9.6	8.5	0.0	0.0
50歳代	82.4	67.2	48.0	28.8	30.4	10.4	6.4	0.0	0.8
60歳以上	83.6	87.3	21.8	29.1	47.3	12.7	7.3	1.8	0.0

(\*) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。

図表25 キャッシュレス決済で支払いをしたことがあるもの

※複数回答(%)

	食料品	衣料・服飾品	交通費	家事用品・日用品	外食費	家電・家具	旅行・レジャー代	通信費	書籍	理容・美容代	電気・ガス料金	その他
全体	82.3	79.6	61.8	56.2	55.2	53.1	47.9	33.3	31.7	29.6	28.8	1.0
20歳代	90.5	71.4	76.2	69.0	59.5	52.4	64.3	40.5	31.0	61.9	31.0	0.0
30歳代	87.4	83.5	62.2	67.7	63.8	55.1	55.1	42.5	44.9	48.8	42.5	0.0
40歳代	80.1	81.7	58.6	55.5	55.5	53.9	46.1	37.7	34.0	29.8	29.8	2.1
50歳代	83.2	82.7	63.7	56.2	57.1	56.2	45.1	29.6	29.6	21.2	23.5	0.9
60歳以上	76.2	69.8	57.9	41.3	41.3	44.4	42.9	21.4	19.0	14.3	22.2	0.8

(\*) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。

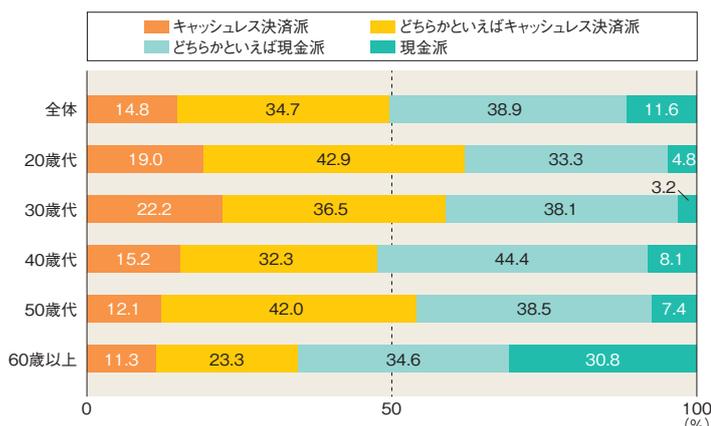
図表28 現金を利用する理由

※複数回答(%)

	現金だと使いにくいから	現金での支払いに慣れていないから	利用した金額を管理しやすいから	どこでも使えるから	個人情報や情報が漏れるのが怖いから	他の支払い方法が面倒だから	現金を持っていないと不安だから	周りの人が現金を使っているから	その他
全体	64.5	46.2	37.9	35.8	29.7	16.7	15.4	0.3	1.6
20歳代	62.5	50.0	50.0	31.3	12.5	6.3	18.8	0.0	6.3
30歳代	61.5	50.0	51.9	38.5	17.3	11.5	17.3	1.9	0.0
40歳代	67.3	47.1	41.3	33.7	32.7	15.4	13.5	0.0	1.0
50歳代	68.6	42.9	31.4	35.2	35.2	24.8	16.2	0.0	1.0
60歳以上	59.0	46.0	32.0	38.0	30.0	14.0	15.0	0.0	3.0

(\*) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。

図表26 キャッシュレス決済派か現金派か



図表29 キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること

※複数回答(%)

	ポイントがよくたまる、還元率が高い	支払いが簡単	割引やクーポン・ポイント等の特典がある	利用可能な場所が多い	セキュリティの高さ	登録・初期設定の簡単さ	その他
全体	73.9	54.7	35.8	30.4	26.8	9.6	0.1
20歳代	90.5	47.6	47.6	54.8	21.4	4.8	0.0
30歳代	91.9	52.8	43.1	38.2	30.9	7.3	0.0
40歳代	75.1	51.8	34.7	31.6	33.2	11.4	0.0
50歳代	72.5	56.3	38.0	26.2	23.6	10.5	0.0
60歳以上	53.6	60.0	23.6	21.4	21.4	9.3	0.7

(\*) ■は、各属性における最も回答率の高い費目。

決済派と答えた主婦の割合が最も高いのは20歳代、現金派と答えた主婦の割合が最も高いのは60歳以上となっている。

### (5) キャッシュレス決済を利用する理由

キャッシュレス決済派と回答した主婦に「キャッシュレス決済を利用する理由」を尋ねたところ、「ポイントがたまるから」が82.9%と最も高く、次いで「支払いがスムーズだから」が71.4%となった(図表27)。キャッシュレス決済派の主婦は、ポイント付与などのお得感や支払い時の簡便性からキャッシュレス決済を利用していることが分かった。

年代別にみると、60歳以上では

「支払いがスムーズだから」、その他の年代では「ポイントがたまるから」がトップであった。

### (6) 現金を利用する理由

現金派と回答した主婦に「現金を利用する理由」を尋ねたところ、「現金だと使いすぎないから」が64.5%と最も高く、次いで「現金での支払いに慣れているから」が46.2%となった(図表28)。現金派の主婦は、使いすぎへの懸念や従来の現金による支払いへの慣れから現金を利用していることが分かった。年代別にみると、「現金だと使いすぎないから」が全ての年代においてトップであった。また、40歳代や50歳代、60歳以上では「個人情報情報が漏れるおそれ

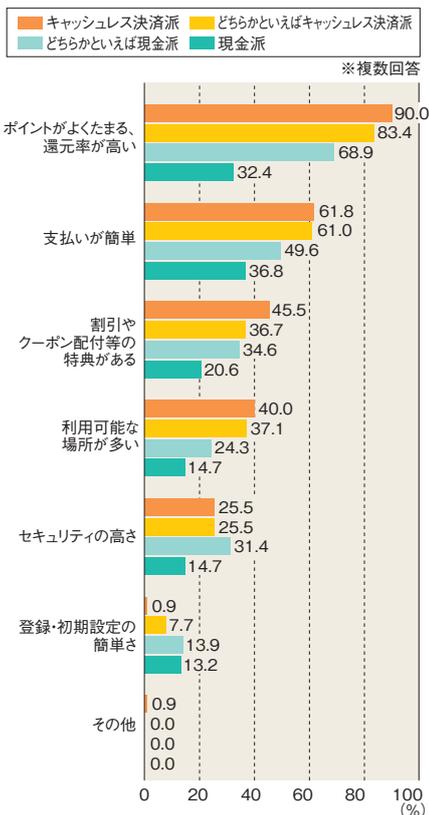
がないから」の回答率が他の年代に比べて高くなっている。

### (7) キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること

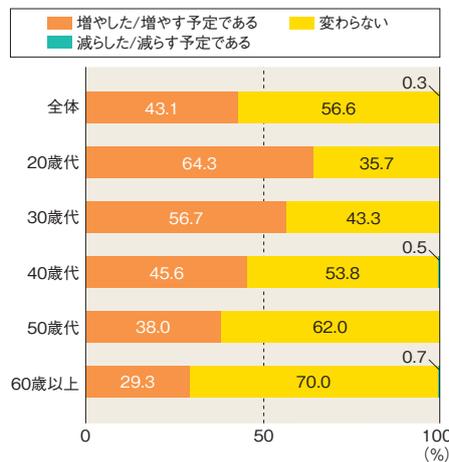
「キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること」について尋ねたところ、「ポイントがよくたまる、還元率が高い」が73.9%でトップだった。以下、「支払いが簡単」が54.7%、「割引やクーポン配付等の特典がある」が35.8%と続いた(図表29)。

年代別にみると、60歳以上では「支払いが簡単」、その他の年代では「ポイントがよくたまる、還元率が高い」がトップであった。特に、20歳代と30歳代は「ポイントがよくたまる、還元率が高い」の回答率が9割以上と

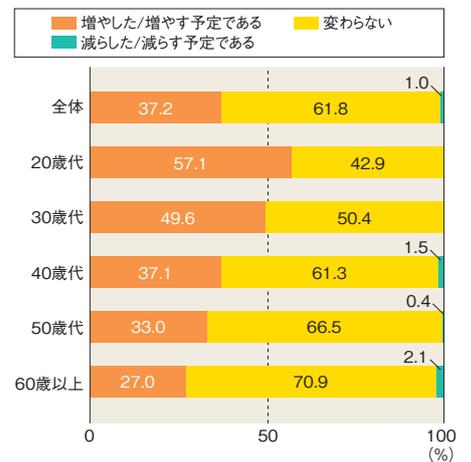
図表30 キャッシュレス決済の利用にあたり重視すること (キャッシュレス決済派・現金派別)



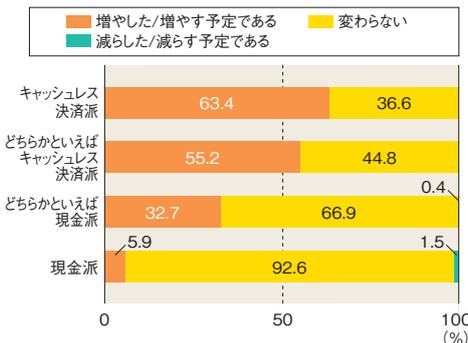
図表31 キャッシュレス決済 利用手段



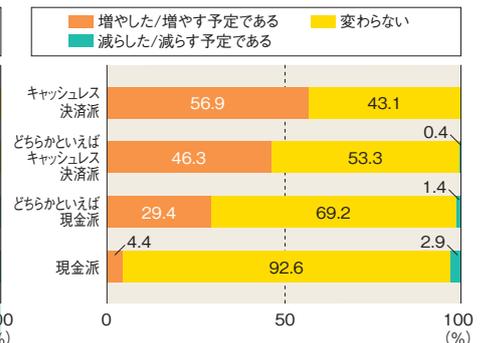
キャッシュレス決済 利用金額



図表32 キャッシュレス決済 利用手段 (キャッシュレス決済派・現金派別)



キャッシュレス決済 利用金額 (キャッシュレス決済派・現金派別)



なっている。

キャッシュレス決済派と現金派別でみると、キャッシュレス派だけでなく「どちらかといえば現金派」においても「ポイントがよくなる、還元率が高い」が6割以上の高い回答率でトップとなった。また、「セキュリティの高さ」と「登録・初期設定の簡単さ」については、キャッシュレス決済派よりも「どちらかといえば現金派」のほうが高い割合を示している(図表30)。

## (8) ポイント還元制度をうけての キャッシュレス決済利用

「消費税増税に伴うポイント還元制度をうけてのキャッシュレス決済利用」について尋ねたところ、「キャッシュレス決済の利用手段」については、「増やした/増やす予定である」が43.1%、「変わらない」が56.6%、「減らした/減らす予定である」が0.3%となった。「キャッシュレス決済の利用金額」については、「増やした/増やす予定である」が37.2%、「変わらない」が61.8%、「減らした/減らす予定である」が1.0%となった(図表31)。ポイント還元制度をうけて、キャッシュレス決済の手段および金額を増やした、または増やす予定の主婦は4割前後であることが分かった。また、ポイント還元制度によって利用手段を増やした、または増やす予定である主婦のほうが、利用金額を増やした、または増やす予定である主婦よりも多い。

年代別にみると、手段と金額いずれにおいても、年代が低くなるにつれて「増やした/増やす予定である」が高くなっている。主に若い年代の

主婦がポイント還元制度によってキャッシュレス決済の手段や金額を増やす傾向にあることが分かる。

キャッシュレス決済派と現金派別にみると、手段と金額いずれにおいてもキャッシュレス決済派に傾くほど「増やした/増やす予定である」の回答率が高くなっている。また、「どちらかといえば現金派」であっても、3割程度はキャッシュレス決済の手段や金額を「増やした/増やす予定である」ことが分かった(図表32)。

## 5 おわりに

今回の調査結果から明らかになった主婦の消費行動及びキャッシュレス決済利用について、以下の3点にまとめてみたい。

第1に、主婦の景況感、前回に引き続き悪化していることがみてとれた。内閣府が行っている景気ウォッチャー調査(令和元年12月調査)や当社が実施するOKB景況指数調査(2019年12月期調査)では、東海地域の景気は悪化の傾向を示している。今回の調査においても、主婦の景気D.I.は前回から12.8ポイント減少し、2008年のリーマン・ショック以降初めての2年連続の低下となった。

第2に、主婦は、引き続き物価上昇を実感していることが分かった。物価D.I.は69.6で、前回調査より6.8ポイント増加し、2年連続の上昇となった。ただ、前回増税時(2014年)の調査における物価D.I.が83.2(前年差+23.2)であったことを考えると、今

回の増税による主婦の物価観への影響は前回増税時ほど大きくないようだ。今回の増税の上げ幅が2%と前回の3%より小さいことに加え、食料品などの軽減税率といった政府による施策の効果がある程度出ていると考えられる。

第3に、主婦のキャッシュレス決済利用についてまとめたい。近年我が国においてキャッシュレス決済の導入が活発になっており、昨年10月からは消費税率引き上げに伴いキャッシュレス決済に対するポイント還元制度が実施されている。今回の調査では、主婦の9割以上が普段の買い物でキャッシュレス決済を利用していた。「キャッシュレス決済派か現金派か」については、両者はほぼ互角となった。キャッシュレス決済の利用にあたり主婦が最重視しているのは「ポイントがよくなる、還元率が高い」であった。ポイント還元制度によってキャッシュレス決済の手段または金額を増やした、または増やす予定である主婦は4割前後であった。

最近窓口における各種手数料や税金の支払い等にキャッシュレス決済を導入する地方自治体も増えており、キャッシュレス化は商業以外でも徐々に広まりつつある。現金に代わる決済手段としてキャッシュレス決済は定着していくのか。我が国のキャッシュレス化の進捗と方向を、今後も注視していく必要がある。

(2020.1.31)

OKB総研 調査部 梅木 風香